

あらたな想いを力タチに…

ともにあゆむ

100th
Kuratakai

- ◎職員とともに
最良の医療・最良の介護を念頭に患者様、ご利用者様の利益につながるよう検討し最良のチームを目指して歩みます。
- ◎関係者とともに
関係機関への情報提供やセカンドオピニオンなど患者様への利益につながるよう努力して歩みます。
- ◎地域とともに
地域とともに保健事業（予防）・医業・介護福祉事業を展開し地域の健康維持と健康増進を目標として歩みます。
- ◎患者様とともに
患者様とともにトータルケアを目標として歩みます。
- ◎地域とともに
倉田会の理念「ともにあゆむ」

No. 40 夏号

=もくじ=

- 子宮がん検診について
(豆知識)
- 笑顔をつなぐ広場
「我が家のがいね、自慢」
- 湘南ひらつか花火大会に協賛
- 「平塚市高齢者よろず相談センター
倉田会」新体制のお知らせ



医療法人財団 倉田会

地域の皆さんとともに…
第71回 湘南ひらつか花火大会に
倉田会100周年記念として協賛いたしました



令和5年8月25日(金)
相模川河口(湘南潮来)にて

令和5年度より
平塚市高齢者よろず相談センター倉田会

新たな職員体制となりました。

ウイズコロナとなり、地域活動についてもコロナ前の状況に戻ります。
介護予防、認知症予防、高齢者の権利擁護活動と多岐にわたり、地域の高齢者の皆さまが、より一層、健康と安心、安全に生活できるようサポートして参りたい、と思います。

お気軽にお声掛けください。

お問い合わせは：

☎ 0463-53-1930



= Lets脳トレクイズ =

ひらがなを並べ替えて単語を作りましょう。

- ①おおしとはせ →
- ②だあはまのして →
- ③んうんだけこしん →



くまくまのまめ② まめまめくま① くまく

【制作・発行元】

2023年（令和5年）7月1日発行（No.40//夏号）
医療法人財団倉田会 理念推進室
～プロジェクトチーム ともにあゆむ～
〒254-0018
神奈川県平塚市東真土4-5-26
TEL0463-53-1955 FAX0463-53-1957
<http://www.kuratakai.or.jp>

【編集後記】 「どうする家康」次々に追い詰められながらも判断を求められ決断を迫られるショット頼りない姿を描いています。「どうする」には自問自答する、相手方に聞く、問われるの解釈があります。絶対服従の時代にありながら、家康は「家臣こそ我が宝」と云ったとか…主君自ら悩み、家臣に意見具申させていました。

時には詰め寄られながらも尊重し権限移譲する姿勢が、家臣の心を引付けていたように感じられます。

迷う主君を鼓舞する微妙な距離感、人間味に共感すら覚えます。絶対君主の信長、ずる賢い秀吉、そして家康の「鳴かぬなら…ホトトギス」其々の性格を詠んだと伝えられています。さて貴方ならば「どうする…ホトトギス」





氏名：佐藤 千年
性別：♀
年齢：12歳
性格：いつも尖ってる
(個性が強いとも云う)
ちょっぴり
肥満体質である



ご応募された方に、もれなくご自慢カレンダーにして差上げます。
応募先…医療法人財団倉田会 法人本部 理念推進室 「我が家の大自慢」宛
〒254-0018 平塚市東真土4-5-26
TEL 0463 (53) 1955 (内線530) E-mail h-omori@kuratakai.or.jp

子宮がん検診について（豆知識）

子宮がんには、大きく分けて子宮頸がんと、子宮体がんの2種類のがんがあります。子宮がん検診には、頸がん検診も体がん検診もどちらもありますが、一般的に子宮がん検診というと、子宮頸がん検診のことと指します。

子宮頸がん検診

子宮頸がんは、子宮の入り口である子宮頸部といふ部分に発生するがんです。原因としては、ヒトペピローマウイルス(HPV)によるものがほとんどで、このHPVが子宮頸部の細胞に働きかけ、がん化させると云われています。

HPVは基本的に性交渉時に感染します。従って一度でも経験がある女性は、誰でも発症する可能性があります。HPVが子宮頸部に感染することで、細胞にがん化させる変化を起こすとするのですが、人間にはウイルス感染を排除したり、ウイルスで傷ついた部分を修復する能力があるため、がんの前段階である「子宮頸部異形成」までの変化であれば、自然治癒力で消退することもあります。

検診では、「この子宮頸部を検査用のブラシ等でこする」とことで、細胞を採取し、異常がないかを確認します。

子宮頸がんは「子宮頸部異形成」という、がんの前段階を必ず経てから発症します。検診では、「この頸部異形成」という段階を発見できますので、早期に発見できれば、その段階から治療につなげることができます。早期の発見であれば、手術などの治療が比較的容易にできることがあります。より定期検診が重要となります。

子宮頸がん検診受診の間隔は、2年に2回以上が推奨されています。乳がん検診と同様に、自治体などの住民健診で受診をされる方も多いかと思いますが、その場合も1~2年に1度の間隔で案内がくる場合が多いと思います。是非、定期的に検診を受診しましょう。

子宮体がん検診

子宮体がんは、子宮の内腔にある子宮内膜から発生するがんになります。子宮体がんの発症は、40歳代から徐々に増加し、50歳から60歳代の閉経前後の年齢で、最も多くなっています。

閉経前後に発症が多くなる理由としては、子宮内膜がエストロゲンという女性ホルモンに長期間影響を受けることで、細胞に変化が起きるということがあります。

また、閉経前は、仮にがん細胞が出現しかけているとしても、月経時に子宮内膜が剥がれ落ちる際に、がん細胞も一緒に剥がれ落ちる

ことがあります。

閉経後の方や、月経が不順な方は、「この内膜が剥がれる」というサイクルがなかつたり、回数が少なくなるため、子宮体がん発症のリスクが高くなると云えます。

子宮がんの自覚症状として、最も重要な所見は不正出血です。月経間に「ピンク色のおりものや、鮮血が出続ける場合は、婦人科を受診して原因を検査する必要があります。

子宮体がん検診は、基本的に自治体などの検診で、施行対象にならないところが多いです。

その理由としては、直接目で見えない所の細胞を取るため、手技が比較的難しく、検査を行っても細胞が十分に取れず、検査精度が低くなることが挙げられます。また検査に時間を要し、受診者さんにとっても強い痛みや出血といった苦痛を伴つことが多い、無差別に多数の対象者に対して施行することが難しいといった背景があります。

これらの理由により、1~2年毎に定期的に検診を受けるというよりは、不正出血などの症状が出た時に検査を行うことの方が多いかと思います。

特に閉経後に不正出血があった場合は、必ず速やかに婦人科を受診して相談されて下さい。

倉田会メディカルサポートクリニック

婦人科医師 及川

